

「教員資格審査調書」記載要領

共通事項

- 1 用紙はA4版横書きとする。
- 2 年号は全て西暦を用いる。
- 3 青字は注意点または例示であり、調書作成の際は削除する。
- 4 表紙の審査年月日の記載は不要で、氏名のみを記載する。

「教員資格審査名簿」の記載要領（1ページ）

- 1～3については記載不要である（選考委員会で記載）。応募者は最終学校名以降から記載する。
- 1 研究科審査職名：「指導教員」、または「授業担当教員」を記載し、括弧書きで前期と記載する。
例) 指導教員（前期）
教授の審査においては、博士前期課程の指導教員の審査まで受けることを原則とし、准教授・講師の審査においては、基準をみたま場合は博士前期課程の指導教員の審査を受けることとする。
博士後期課程の授業担当教員、指導教員の資格審査は、理工学研究科人事委員会の定めによる。
 - 2 担当予定科目等（学部、大学院）：博士前期課程の授業担当教員である者が博士前期課程指導教員の審査を受ける場合は、記載不要である。
 - 3 担当予定科目に関連した職務の従事期間：常勤の身分で勤務した経歴のみを算入する。ティーチングアシスタントや非常勤講師の期間は除く。
 - 4 最終学校名等：卒業見込み、修了見込みでも記載ができる。ただし、（卒業見込み）または（修了見込み）と括弧書きで記載すること。
 - 5 学位・称号：全てを記載する。
 - 6 国籍：国名を記載する。

「履歴書」の記載要領（2ページ）

- 1 学歴：高等学校卒業以降を全て記載する。外国の学校名は英文標記等でよい。
- 2 職歴：記載方法は次のように統一する。
一機関における在職状況を明確に記載する。
例) ○年○月 ○○○○ 採用／入社／勤務
○年○月 同上 辞職／退職
- 3 写真欄は応募時のみ使用する。

「業績調書」の記載要領（3ページ以降）

1. 教育, 2. 研究, 3. 管理運営, 社会活動, その他 の項目毎にページを改める。
1. 教育
 1. 1 教育機関に所属していた場合記載する。
教育担当時間：常勤の職場で教育担当がない場合は空白にする。常勤の講義を担当している場合は過去5年間のものについて記載する。同一名称の講義を複数年に亘って担当・実施している場合は、実施期間の平均で記載する。所属する教育機関以外での非常勤の講義等は記載しない。
例) 学部の同一名称の講義を4年間に亘り1人で担当している場合

2000. 04～2003. 09 B3 前期・講義 ○○工学 50名 1.5h×15=22.5h

学部の同一名称の講義を3年に亘り分担して担当している場合

2001. 10～2004. 03 B2 後期・講義 □□工学 100名 1.5h×3=4.5h

大学院前期課程の同一名称の講義を3年に亘り1人で担当している場合

2000. 04～2003. 09 M1 前期・講義 ○○工学 30名 1.5h×15=22.5h

1. 2 企業などに所属していた場合には記載する。企業内または外部の教育機関における非常勤講師等としての活動状況を記載する。非常勤講師等の場合は大学、学部、研究科等の名称を括弧書きで記載すること。記載要領は1. 1に準ずる。

1. 3 その他：教育機関に所属していた場合には記載する。過去5年間で下記の事項について関連する事項があれば記載する。

- ・課程博士、論文博士の学位審査に関する事項：主査○件、副査○件
- ・修士学位論文審査に関する事項：主査○件
- ・教育機関に所属している場合、同一機関内における非常勤講師の経歴：1. 1に準じて記載（講義等を実施した学部・学科を括弧書きで記載すること）
- ・教育機関に所属している場合、課外活動等の顧問に関する事項：○○部顧問（期間）

1. 4 教育活動に対する総合的自己評価と今後の抱負（500～800字程度）

企業に在職している場合や博士後期課程の学生で、教育機関での従事経験がない場合には、若手社員の教育やティーチングアシスタントにおける自己評価、担当可能な科目、学生の教育に対する考え方などをまとめる。

2. 研究

2. 1 学位論文：タイトル名、学位授与機関、学位記番号、取得年月について記載する。

2. 2 論文（査読のあるもの）：最新のものから順次発表年を遡って記載する。レターには「*」印、国際会議プロシーディングスには「**」印を番号の後に付記する。著者が多数の場合は、主な著者を記載し、以下を省略してもよい（省略する場合は著者の人数と、本人の氏名が記載されている順番を○番目と記載する）。著者が複数人の場合は貢献の度合または担当部分を備考に記載すること。国際会議等のシンポジウムについては、全文査読が実施されている場合は、ここに記載してよい。

例) 著者 タイトル名 雑誌名, 巻・号(年月), pp. ～, (備考: 実験データ解析を担当)

概要: (5年以内の論文については概要を150字以内(3～4行)で記載する。)

2. 3 論文（査読の無いもの）：2. 2に準じて記載する。国際会議等におけるアブストラクト査読のみのもの、国内学会等の研究会（ただし大会における口頭発表は除く）における発表論文（技術研究会等の報告）を含めてよい（概要の記載は不要）。

例) 著者 タイトル名 信学会環境電磁工学研究会 (EMCJ) Vol. No. (年月), pp. ～,

(備考: 実験データ解析を担当)

2. 4 総説・解説等：2. 2に準じて記載する（概要の記載は不要）。

2. 5 著書：2. 2に準じて記載する（概要の記載は不要）。

著者、書名、出版社名、発行年月。共著の場合は担当の度合、分担執筆の場合は担当ページなどを記載する。

2. 6 作品：建築学等における「設計」等を記載する（最近5年以内のものについては概要を記載）。作者名、作品名、発表雑誌等、発表年月。競技設計等であれば競技設計の名称および評価など、著者が複数

の場合は貢献の度も記載する。

2. 7 特許：以下の事項について該当する部分まで記載する。
発明者，発明の名称，出願国，出願番号（出願年月日），公開番号（公開年月日），公告番号（公告年月日），登録番号（登録年月日）
 2. 8 学術賞：学会の論文賞等学術で貢献したことに対する受賞について記述する。
受賞者，受賞タイトル名，受賞対象となったタイトル名，授与者名，受賞年月
例) 鹿児島太郎 論文賞 ○○○○の解析 機械学会 2003年〇月
鹿児島太郎 功績賞 ○○○○に関する研究 機械学会 2003年〇月
 2. 9 研究助成：科学研究費補助金，産学連携研究等競争的資金の取得状況，および共同研究，受託研究について過去5年間程度を目安とし，下記事項について記載する。（原則として研究代表者のみに限定）
申請者，研究課題名，助成金の名称（資金提供者），確定年月／期間，金額
 2. 10 その他：上記のいずれにも分類されていない研究活動で，自己PRの必要があると判断される事項について記載してよい。
例) 連携研究員としての活動（連携先，研究課題，研究分担課題，期間など）
学会の大会における口頭発表であるが，是非記載しておきたいものなど
その他必要と考える事項
 2. 11 研究活動に対する総合的自己評価と今後の抱負（500～800字程度）
助教への応募で研究活動の期間が短い場合には，今後の展開を中心にまとめる。
3. 管理運営，社会活動，その他
所属する組織（機関）内外における活動実績について過去数年間を目処に記載する。
3. 1 所属機関内における活動：教育機関に所属している場合は委員会活動等について記載する。
 - ・教育機関に所属している場合の記載事項例
学長から指名された役職等（期間を括弧書きで記載）（副学長，学長補佐）
入学試験業務への参画状況（年度も記載）
例) センター試験出題委員，個別試験出題委員・採点委員，〇〇試験出題委員・採点委員など
学部の代表委員としての経歴（年度も記載）
学科内等の委員経歴（年度も記載）
例) 学科長，教務委員，FD委員，評価委員，学生委員会委員，広報委員，就職委員，ネットワーク委員，国際交流委員，施設整備検討委員，その他学科において重要と思われる委員会委員など
 - ・企業等所属している場合
企業等における職制で，教育機関における委員と同等と思われる諸活動について記載する。
 3. 2 所属機関外における活動：国または地方公共団体等の委員会活動への参画状況について記載する。
 3. 3 学会活動等：所属学会における委員の経歴，全国大会，支部大会等における座長の経歴等を記載する。その他，国際会議等の主催に関連した委員経歴等も記載する。
 3. 4 特記すべき活動実績：3. 1～3. 3までの分類に属さない活動で，自己PRとして記載すべきと考えられる活動について記載する。
例) 出前講義，高大連携事業，大学／工学部のPR活動，公開講座，ものづくり〇〇教室など
 3. 5 管理運営，学会及び社会活動における総合的自己評価と今後の抱負（500～800字程度）

助教への応募の場合には、400～500 字程度でもかまわない。

審査付き論文の内訳

※の特記事項を確認の上、「2. 2 論文（査読のあるもの）」の内訳について件数を記載する。

※の最初の項目には年月を記載する。